


## 聴覚特別支援学校小学部における国語科の単元づくり

聴覚特別支援学校では、主に準ずる教育課程で教科学習を行っています。聴覚障害の状態により児童たちの実態は様々であり、学習を進めていく際には配慮や工夫が必要です。ここでは、国語科（「読むこと」の単元）の基本的な単元の流れとポイントとなる手立てを示します。

 「特別支援学校の準ずる教育課程における国語科の単元構想」と合わせてお読みください。

### 1 実態把握と教材研究

指導事項など教材に関わる実態把握をし、身に付けさせたい力を明らかにします。それらを踏まえて教材の特徴を捉え、単元目標を設定します。

「読むこと」の単元における教材研究では、主題や要旨など、教師自身が教材解釈を深めておくことも必要です。ただし、その全てを指導するわけではありません。

### 2 つまずきの予測



児童が生き生きと学習に取り組み、目標を達成するためには、教師が事前に児童のつまずきを予測するとともに、手立てを考えることが必要です。

特に、聴覚障害児は、言語面の発達に偏りや遅れが見られることが多くあります。健聴の児童が一般常識として知っている言葉や知識であっても、聴覚障害児には不足している場合があります。授業が「言葉の指導」のみに終わらず、国語科の目標を達成するためには、一人一人の実態把握と教材研究が欠かせません。

○ つまずきを予測して手立てを考える。

- ・ つまずき例1：難語句

つまずきの一つに、「難語句」があります。語句の意味や文法の理解などについてのつまずきです。難語句を洗い出し、それぞれ、いつ、どのように指導するか計画します。例えば、実物や写真、動作化、言い換え、辞書、例文作り、実際に生活の中で使うなどの方法が考えられます。

- ・ つまずき例2：読みの土台となる知識

教材文を読み内容を理解するには「既有知識」が必要となります。教材文を読む際の土台となるような知識のことです。例えば、「たんぽぽのちえ」（光村 2 年上）においては、植物の生長や種の保存について基本的な事柄を知っていなければ、たんぽぽの「ちえ」について驚くことができないでしょう。「一つの花」（光村、教出 4 年上）においては、戦争や時代背景を知らなければ登場人物の心情を想像することは難しくなります。単元の目標を達成するために必要な「既有知識」を明らかにし、不足している場合は補う方法を考えます。例えば、実際に体験する、動画を見たり本で調べたりするなどの方法が考えられます。

○ 単元の事前から事後、また、児童の生活全体を視野に入れ、必要な指導や環境設定を行う。

つまずきに対する指導・支援や環境設定を行うには、その時間に行うほか、単元導入前、導入時、あるいは、終了後に行うことも考えられます。さらに、自立活動や学級活動など他の領域・教科の時間に行う、家庭に協力を依頼するなど、様々な取組を含めて計画しましょう。

教材について年間を通した見通しをもち、適切な方法を、意図的に仕組んでいくとより効果的です。

### 3 「読むこと」の単元の進め方（単元モデル）

実際に、どのように学習を進めていくのか、児童の学習活動と教師の指導・支援、留意点の参考例を示します。児童の実態に応じて単元を構想しましょう。

	学習活動	◇指導および支援、手立ての例	*留意点など
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>難語句を生活の中で使う。</li> <li>内容に関わる予備知識を得たり体験をしたりする。</li> </ul> 例) 直接体験、間接体験 (DVD、本、新聞など)、短文作り、プリント学習など *低学年では、主に教師や家族の支援を受けて行う。高学年では、主に自力で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇実態把握と教材確認（選択）</li> <li>◇教材研究</li> <li>◇単元目標の設定と単元計画の構想</li> <li>◇つまずきの予測と手立ての計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 難語句等について、いつ、どのように指導・支援するか考えておく。</li> <li>• 必要に応じ、難語句や土台となる知識を補うための働き掛けや学習を行う。</li> <li>• 内容に関わる本などを、教室に置いたり読み聞かせをしたりして、内容に興味をもたせる。</li> </ul>
一次	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>文学的な文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物、あらすじをつかむ。</li> <li>場面分けをする。(各場面にタイトルを付ける。)</li> <li>初読の感想をもつ。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>説明的な文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の大体をつかむ。</li> <li>形式段落、意味段落に分ける。段落の大まかな関係をつかむ。</li> <li>初読の感想をもつ。</li> <li>問いの文を押さえる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学習のめあて」をもち、学習計画に見通しをもつ。</li> <li>新出漢字や難語句について学習する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>方法や順序は、児童の実態や教材による。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇図鑑や写真、絵本、DVD、実物などを活用し、全体のイメージをもたせる。</li> <li>例) 内容に関する一般的な知識等をもたせるものや、文学的文章のあらすじや全体のイメージをつかませるもの。</li> <li>*初読では、実態に応じて、絵本、アニメビデオ、手話ビデオなどを利用したり、教師が身振りや手話を用いて範読したりする方法もある。⇨ただし、イメージを限定してしまう恐れがあるので、実態やねらいを考えて使用する。また、映像等視覚的補助手段による理解にとどまらず、児童が言葉や文章を確実に理解できるように指導する。</li> <li>◇あらすじや内容の大体をつかむ際に有効な手立て</li> <li>例) 挿絵の並べ替え、挿絵をよむ、絵を描く、5W1Hのワークシート など</li> <li>◇挿絵は次のような場面で活用できる。</li> <li>例) あらすじの確認、場面（意味段落）分け、小見出しやタイトルを付ける活動 など</li> <li>◇「学習のめあて」＝単元を貫く学習課題を児童と共有する。</li> <li>例) 「周りの様子や〇〇の気持ちを考えて絵本を作ろう」「説明文を書くときの技を見付けよう」</li> <li>◇単元の学習計画を示す。掲示しておくともよい。</li> <li>◇難語句の学習方法は、学年、実態に応じて工夫する。</li> <li>参考) 主に低学年…家庭と連携して。 主に高学年…予習として。意味調べ、短文作り、ポイントを空欄にした穴埋め式にしたり、語句と意味を線で結んだりするプリントなど工夫するとよい。</li> </ul>	

<p>二 次</p>	<p>単元目標、各時間の目標に沿って読み取ったり読み深めたりする。</p> <p>*目標は、学習指導要領の各学年における目標や内容（指導事項）等に照らして設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一時間ごとの「めあて」をもつ。</li> <li>• 内容を読み取り、「めあて」について考える。</li> <li>• 自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたりして話し合い、理解を深める。</li> <li>• 「めあて」について分かったことや考えたことなどを振り返り「まとめ」をする。</li> </ul>	<p>「学習のめあて」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇児童が見通しをもって取り組めるよう、授業の流れをできるだけパターン化する。</li> <li>◇各時間の目標をしぼる。その時間の目標を児童の言葉や姿で表現した「めあて」と「まとめ」、「まとめ」に至るための「授業のやまば」を考える。</li> <li>◇各時間の学習内容が分かる掲示物（「学習の足跡」）や板書の記録を残し、前の学習を振り返ったり、全体を捉えたりするために活用する。</li> <li>◇発問を工夫する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 目標に到達する道筋として発問計画を立てる。</li> <li>• 「閉じた発問」「開いた発問」、思考を揺さぶる発問など、ねらいを明らかにして使い分ける。</li> </ul> <p>注）「閉じた発問」…答えが「はい」「いいえ」であったり、一通りのみであったりする発問（5W1Hを問う発問など）</p> <p>「開いた発問」…答えが多様にある発問</p> </li> <li>◇補助手段を活用する。             <p>例）挿絵、写真、ビデオ、実物、模型、動作化、ペーパースート操作など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ねらいを明確にして活用する。</li> <li>• 補助手段によって児童が表現したことや理解したことは、必ず言語化し本文と結び付ける。</li> </ul> </li> <li>◇板書を構造化する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一時間の学習の流れが分かるように構造化し、児童が思考したりまとめたりする際の手掛かりとなるようにする。</li> <li>• 色チョークや挿絵、吹きだし等を活用する。</li> </ul> </li> <li>◇家庭学習を有効に活用する。             <p>参考）主に低学年…家庭と連携し、復習を中心に行う。</p> <p>例）音読の際登場人物の様子や気持ちを話し合う、学習内容の確かめプリント など</p> <p>主に高学年…予習や復習を行う。</p> <p>例）語句の意味を理解するプリント、学習課題に対するライン引きや書き込み など</p> </li> <li>*言語指導面から、             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師や友達の発言を正しく受容できているか。</li> <li>• 正しい日本語で表現しているか。</li> <li>• コミュニケーションでは、文でのやり取りになっているか。応答関係は成立しているか。</li> </ul>             等の点に留意する。           </li> <li>*「学習のめあて」達成に向けて毎時間の「めあて」と「まとめ」があり、それにより「学習のめあて」を達成していく。</li> </ul>
----------------	---	-----------------	---

三  
次

- 全体を振り返り、分かったことや感想をまとめる。

文学的な文章

- 全体を振り返り、感想などを表現する。

例) 場面ごとのワークシートをまとめ、絵本を完成させたり、登場人物に手紙を書いたりする。  
音読や劇の発表会をする。  
感想文を書く。 など

説明的な文章

- 全体をまとめ、要旨や文章構成をつかんだり自分の考えをもったりする。

例) 「〇〇図鑑」「△△新聞」などを作る。

段落のつながりを考え文章構成図に表したり、効果的な文章構成を理解したりする。  
など

- 同じ作者の作品や、同じような内容の本を読む。
- 完成させたもの（絵本、劇、図鑑、プレゼンテーション資料等）を、発表したり掲示したりする。
- 語句や文法などの学習をする。

◇全体を通して（統合して）、分かったことや感想を言語化できるようにする。「学習の足跡」（各時間の学習内容が分かる掲示物）を活用するとよい。

◇できるだけ、まとめたものを発表する場を位置付けておくとよい。

例) 〇〇新聞を配布する、集会等で劇を発表したり、プレゼンテーションをしたりする など

◇他の領域・教科とリンクさせ、学んだことを活用する場を設定するとより良い。

例) 食育、総合的な学習の時間と関連させる など

方法は、実態や目標による。

参考：「小学校学習指導要領解説（国語編）言語活動例」  
あすなろホームページ「C読むこと」における、  
様式を持った言語活動の例」



◇「学習のめあて」を達成し成就感を味わうとともに、児童の実態によっては「学んだこと」や「できるようになったこと」の自己評価を取り入れる。

◇語句や文法、読む能力について、短文作りや練習問題等で定着を図る。自立活動や家庭学習で取り組むこともよい。

4 教材・教具、記録等を活用する



学習で使用した教材等、例えば、書き込みをした拡大本文や「学習の足跡」（各時間の学習内容が分かる掲示物）、挿絵、DVDや写真、お面や模型等の制作物、ワークシート等は、まとめて保存しておくとい良いでしょう。単元づくりでは、前年度の記録等を活用することができます。そのまま使うことはできなくても、つまずきの予測や単元構想に役立ちます。また、板書や指導案等のデータも参考になります。それらを保存、活用することで、単元づくりの工夫を「学校の財産」として生かすことができます。